

令和元年度 奈良県教育長賞

「税って何だろう」

奈良県立大淀高等学校 一年 岡本 美桜

私は正直、中学生の頃も税の作文という宿題があり税って何なんだろうと疑問しかなく何をどう書けばいいか分からず、今も何をどう書けばいいのだろうかと思っています。ですが必死に調べて理解しようと頑張ろうと思います。

まず、税の必要さとは、国や都道府県、市町村では私たちが健康で文化的な生活を送るために個人ではできない公共サービス等の仕事をしています。このような公共サービスや公共施設を提供するためには多くの費用が必要になります。その費用をみんなで出し合って負担しているのが「税金」だということを学びました。

そして次に税は国民の暮らしを支えていることを学びました。それはどういうことかという、私たちが納めた税金は国民の「健康で豊かな生活」を実現するために、国や地方公共団体が行う活動の財源となるのです。私たちは一人では生きていけません。税は私たちが社会で生活していくためのいわば「会費」と言えるでしょう。それから税金がもしもなかったら救急車、医療費すべて、ごみ収集や交番のような公共サービスを受けるのにお金がかかることになるということを知りました。私がそこで思ったことは、ごみ収集では分別で取りに来るのでその度お金を払うということとはとても出費がきつくなるんじゃないかと思いました。それにもし財布を失くした時や盗まれた時に交番を頼ろうとしても、財布がなければお金がないので払えないので交番を頼ることが出来なくなってしまうなと思いました。

そこでこれからの税のしくみの在り方について調べました。これからの日本では少子高齢化や厳しい財政状況を踏まえ、豊かで安心して暮らせるための社会保障制度や持続可能な財政構造の構築が必要になります。そのためには、歳出面での改革とともに、税制面では、所得、消費、資産などの多様な租税ベースに適切な負担を求めつつ、必要な公的サービスを安定的に支える歳入構造の構築が重要となります。豊かで安心して暮らせる未来のためには、公平な租税負担と給付の関係について、私たち一人ひとりが考えることが大切だと知りました。

私はこの税の作文のおかげで税のことを考える大事さに気付かされました。税のことをしっかり学べて良かったです。